

中長期目標 (学校ビジョン)	1. 主体的学習者の育成 2. 21世紀をリードする人材の育成	今年度の重点目標	1 次代を生き抜く学力の伸長 2 定時制教育のさらなる充実 3 業務改善の取り組み
-------------------	------------------------------------	----------	---

○評価基準 A 80%以上(概ね達成) B 60～80%(一定の成果がある) C 40～60%(さらなる努力が必要) D 40%以下(現状が改善されていない)

【全日制課程】

評価項目		具体的項目	現状	年度当初 目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	評価結果()月		
						経過・達成状況	評価	次年度に向けての改善方策
学力向上		基礎学力の定着 (知識・技能の習得)	・家庭学習時間1日3時間の目標は、全学年の平均で達成できているが、学年別では1、2年が到達していない。時間割編成上、個のレベルに応じた授業には限界があるが、学力層に応じた課題が用意され与えられてきている。 ・リメディアルはできていない。1年次において到達度テスト(スタディサブリ)が活用され始めている。	・家庭学習時間は1日3時間は確保され、学力に応じた課題と授業により、効果的な学力の定着が図られている。 ・生徒は個々のつまずきに対応した学び直しを家庭で行い、基礎学力の定着を進めている。	・家庭学習調査は年5回実施を継続する。 ・単位制の特性を活かした教育課程の研究を進め、学力層に応じた授業を展開できるようにする。 ・新入生の3科の学力を合格者テストと到達度テスト(スタディサブリ)を使用して調査し、リメディアルを1か月実施する。定期考査で成果を検証する。 ・校内のWifi環境を整え、ICTの活用を進めることで生徒の学習を管理できるようにする。			
		思考力・判断力・表現力を高める授業の構築	・各教科において入試改革による思考力、判断力、表現力をみる問題の研究をすすめているが、授業評価アンケートの「授業で教え合いや課題解決の場面がかなりある」は64.7%であった。 ・各教科において来年度の入試改革に対応した評価問題の研究が行われているが、教科を超えた話し合いや、成果物を共有する場は設けられていない。	・授業を通じて生徒は基礎学力が定着し、思考力、判断力、表現力が高まっており、今年度の授業評価の「授業内での課題解決の場面がかなりある」の数値が80%となっている。 ・進路指導テストや定期考査において、知識・理解の評価だけでなく、思考力・判断力・表現力を評価する問作が行われている。	・全ての授業を基本的に公開とし、研究授業の際は他教科の教員も積極的な参観を行う。 ・研究授業の指導案に、思考力・判断力・表現力を高める工夫を分かりやすく標記するよう促す。 ・先進校視察の後には授業実践報告書を作成し職員研修で共有する。 ・授業アンケートは年2回の実施を継続するとともに、アンケート内容の再検討を行う。 ・各教科で思考力、判断力、表現力をみる評価問題と評価ルーブリックを公開し、ノウハウを共有する。 ・大学入学共通テストの研究会を実施する。			
探究学習		探究活動の推進	・探究学習に関する理解は進んだが、まだ探究が深い学びとなっていない。 ・1年次のスキル学習では研究対象が校内で限定され、発表も同一学年内にとどまっていた。 ・昨年までの必読図書が廃止され、生徒の興味関心に応じて自由に本を選んで読む方式に変更されたが、朝読書では読むべき本を探しあぐねている生徒も散見される。 ・高校生フォーラムに変わり探究活動がスタートすることで、プレコンと探究活動とが効果的に結びつくよう工夫していく必要が生じている。	・探究活動が充実し、生徒の評価ルーブリックの平均値が「3」(最高点は4)を上回っている。 ・探究が校内だけでなくとまらず、全国的なコンテストへの応募が30件以上あり、海外との共同研究もおこなわれるなど、研究が外部に展開している。 ・生徒が主体的に読書を行い、図書館の貸出冊数が前年比で2倍に増加している。 ・プレゼンテーションコンテストを通じて3年生が探究のリーダーシップを発揮すると共に、2年生も探究学習で培ったノウハウを提供し、充実したプレゼンテーションが行われている。	・先進校の事例研究を進め、生徒・指導教員に分かりやすい情報提供・技術指導を行う。 ・外国の高校との共同研究を充実させるとともに、外部のコンテストの情報を収集・提供し、積極的な応募を促す。 ・必要な書籍購入を進めるとともに、図書館の環境整備や書籍情報の提供など、豊かな読書環境の整備を進める。 ・生徒会は探究部と連携を取りながら、企画運営面での工夫を行う。探究活動を通して身に付けたスキルを活用する場や機会を確保する。			
		キャリア教育の充実	・3年間を見通した学習に関するロードマップがなく、リメディアルが必要な生徒や発展的な学習が必要な生徒への手立てが効果的に行われておらず、そのような生徒の進路実現が十分に達成できていない。	・3年間を見通した計画的かつ効果的な学習活動を行うことで、自己の進路実現に向けた学力を身につけている。 ・大学合格者数が学校指標(超難関大学合格者5名以上、難関大学合格者20名以上、中堅大学合格者50名以上)に到達している。	・3年間を見通した学習に関するロードマップを全教科で作成する。その際に、授業、課題、スタディサブリを学力層別に効果的に設定し、進路指導テストとリンクさせた質の高い学習活動を計画する。また、課題量の調整を行い、各教科の学習バランスが適正なものとなるようにする。 ・高大接続改革についての研究を行う。			
学校の教育力の伸長		学校行事の充実	・生徒が主体性を発揮する場面が少なく、部活動のルールについてもあいまいな部分があった。 ・海外研修は、朝鮮半島情勢の影響により従来の韓国研修旅行ではなく、一昨年は沖縄、昨年は台湾に変更して実施した。また、同様の理由で韓国安養高校との交流事業も2年間中止となっている。	・部活動学校方針に則り、教職員及び生徒が創意工夫を凝らして活動し、豊かな人間性や社会性を育む中で、部活動が喜びや生きがいの場となり、生徒アンケートの結果で肯定的回答が90%を超えている。 ・さまざまな国際交流を通じて他国の文化や価値観を理解し、世界的な視野で物事を考えることができる。	・活動時間を見直し、改めて生徒の主体性を促す。教員は生徒が自発的に行動する場を提供し、充実した活動となるよう努める。 ・朝鮮半島情勢は、依然として不安定であるため、昨年に引き続き、台湾研修旅行で実施する。今後も台湾で継続の可能性が高いので、台湾での研修プログラムの研究を進める。 ・2年間中止となっている安養高校との交流事業について、今年度は、受け入れという形で各分掌が連携しながら実施する。 ・他校の探究プログラムとの系統的な位置づけの中で、セントジョセフ高校、安養高校との交流を図る。			
		人権教育の充実	・生徒は概ね安心安全な学校生活を送っているが、一部生徒同士でからかいなどがあった。 ・人権教育LHR委員は、教職員と話し合いを持ちながらLHRの運営をしているが、他の生徒の取り組みは受け身になりがちである。	・生徒一人一人が大切にされ、自分らしく安心安全な学校生活を送っている。 ・人権教育LHR委員が中心となり、人権教育LHRの企画・立案・運営を行うことで、活発な意見交換が行われ、人権意識が深まっている。	・授業、学校行事、部活動など全教科全領域に亘り人権教育に取り組む意識を持つ。 ・すべての生徒が自分のこととして人権について考えられるよう、探究型の人権教育LHRの企画から教職員が深く関わる。			
		外部との連携	・学校・育友会ホームページや倉東だより等広報誌によって本校の教育活動についてリアルタイムな情報発信に努めたが、ホームページにおいて一部、部活動情報等の更新が不十分であった。 ・育友会には、「大人の一言」や「強歩大会での豚汁支援」など様々な取り組みを通して生徒の教育活動をサポートしていただいている。また、同窓会においても、昨年、110周年事業が開催され、基金を通して経済的な面で生徒の教育活動を支援していただいている。	・本校の教育活動に係るリアルタイムな情報発信に努め、地域・保護者・中学生等へ広く情報提供できている。 ・本校の教育方針を踏まえ、育友会や同窓会との連携をより一層充実させ、生徒を学習面・生活面で支援するとともに会員一人一人が学び、参加・交流できるような活動が展開されている。	・本校の教育活動に係るリアルタイムな情報発信に努めるとともに、本校ホームページをより分かりやすく、魅力的なものにし、地域・保護者・中学生等へ広く情報提供していく。 ・会員のご理解とご協力を得て活発な活動を推進し、一層の活性化を図る。			

【定時制課程】

評価項目		具体的項目	現状	年度当初 目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	評価結果()月		
						経過・達成状況	評価	次年度に向けての改善方策
定時制教育のさらなる充実		積極的な生徒指導による授業規律の確立と主体性の育成	・授業規律を守り、生徒会活動においてもその重要性を意識し活動している。講演等の内容を肯定的にとらえ、高い進路目標を目指して学校生活と就労を両立させている。 ・2年次生関西研修で夜間中学生との交流を通して学ぶことの意義について考えるとともに、企業見学等を通して生徒の進路意識が高まっている。 ・各行事を生徒会執行部が中心となって運営している。 ・日頃から生徒理解に努め、家庭訪問・職場訪問・個別面談・保護者懇談などを実施し迅速で適切な生徒指導に努めている。	・規律ある学習態度が維持されており、学習の意義や目的を多くの生徒が理解し、その結果、一人ひとりの希望進路の実現につながっている。 ・生徒の授業に対する理解度や満足度が高く、学習意欲や学力が向上している。 ・生徒が主体となって様々な活動や行事を行うことによって、社会で必要とされる力を身につけることができる。	・授業規律の重要性を認識させるとともに、常に個々に応じた授業改善に努め、生徒の理解度や満足度の高い授業を目指す。 ・関西研修、じげ産業文化探訪等の活動内容が学習意欲をさらに高めるよう、その地域でしか見られない見学先を精選し多面的な指導を行う。 ・生徒が中心となって生徒会活動を運営し、生徒の連携が強まる指導を行う。 ・学校から積極的に情報提供を行うと同時に、保護者が相談しやすい体制を整え、学校と家庭の信頼関係の構築に努める。			

【全日・定時制課程共通】

評価項目		具体的項目	現状	年度当初 目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	評価結果()月		
						経過・達成状況	評価	次年度に向けての改善方策
業務改善の取り組み		学校行事・研修会等の見直し ・長時間勤務者の解消	・目的が重複する行事やその準備等によって、勤務時間の長大化につながっている。 ・各部で休養日の設定などがなされていない。 ・完全下校時間の徹底がなされていない。	・優先順位の低いものについて1つ以上の業務削減。 ・月当たりの時間外業務を平成29年度比で15%削減。 ・休養日、活動時間を設定した活動方針の全部活動への徹底。 ・部活動に係る時間外業務80時間以上勤務者の削減。	・行事や校務分掌を一覧化、優先順にの洗い出し。 ・行事の準備等に過剰なものがないかの点検。 ・管理職員による各部の休養日、活動時間の把握、遵守の働きかけ。			